

みやぎ梅花

題字は曹洞宗宮城県宗務所梅花講長 三田村 道 雄

宮城梅花 令和3年. 5. 20 発行 第54号

発行所 曹洞宗宮城県宗務所
〒981-3117
仙台市泉区市名坂字檜町169-4
TEL 022-218-3801 FAX 022-218-3803



嶺の色

谷の響きも皆ながら

我が釈迦牟尼の

声と姿と

溪声永平寺第一番

『写真と歌詞』

元梅花流特派師範

眞源寺住職 齋藤 政裕

齋藤政裕先生には、今年も素晴らしい写真と文章を賜りました。

写真とテーマ解説の全文は、7ページに掲載させて頂きましたので、ぜひご覧下さい。

ご挨拶



宗務所梅花講長

三田村 道雄

目に鮮やかな新緑の季節を迎えました。

講員皆様には、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

常日頃、宗務所梅花講事業並びに運営等につきまして、深いご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

また各寺院梅花講長老・寺族様には、梅花流敷衍にご尽力を賜っていることに、深く感謝申し上げます。

昨年度の事業につきましては、新型コロナウイルス感染症の感染状況に鑑み、ほとんどの事業（全国奉詠大会・特派講習会・県奉詠大会・検定会・特別講習会等）が中止となりました。しかし、宗務所養成所（初級上級）・宗務所師範研修所については、ソーシャルディスタンスに注意し、時にはインター

ネットを活用しての、リモート講習を実施いたしました。

各講においても、密にならないよう工夫して活動されていることと存じます。

本年度の事業・予算については、去る三月十六日、所会議員各老師全員出席のもと、「宗務所定例予算所会」が開催されました。

役員会や評議員会において、ご助言いただき、それを反映させていただいた事業案並びに予算案を上程させていただきました。

慎重審議の上、上程案件全て、全員の賛同を得て承認可決されました。

コロナ禍ということを鑑み、以前にもお知らせ致しましたが、全国奉詠大会・特派講習会・県奉詠大会・特別講習会につきましては、昨年同様中止とさせていただきますが、講員皆様のご要望がございました宗務所検定会につきましては、できる限りの感染予防対策を講じて実施させていただきたいと

存じます。

また予算関係においては、講員皆様の練習会がままならないことを考え、詠道向上の一助となる様、みやぎ梅花別冊（奉詠法等掲載）を刊行し、更にはデジタル広報（インターネットを活用しての広報）の為に広報費として新計上し、また、教区における事務助成も少し手厚くさせていただきました。コロナ禍ではありますが、できる限りの梅花流宣布に、職員一丸となって努めて参ります。

講員皆様には、感染拡大の防止を最優先にお考えいただき、各講についての活動をお願い致します。

先の状況が見えない中ではありますが、一刻も早く状況が改善され、コロナ禍前の梅花流活動が展開されるようお願い致します。

皆様のご健康をお祈り申し上げますと共に、今後もご支援ご法愛賜りますようお願い申し上げます。

合掌

特別企画

特派師範先生に聞いてみよう

特別講習会講師

長野県 検校庵

鈴木恵道 先生



令和元年度特別講習会のお写真

昨年から続くコロナ禍のため、今年度も諸々の行事を中止せざるを得ない状況です。例年開催される、特派講習会、特別講習会も中止となり、全国の特派講師による特別な講習も受けられず、只々残念です。そこで、特派の先生に色々質問してお話を聞いてみようかと企画しました。

今回は特別講習会で長く講師をお務め頂いている、鈴木恵道先生に質問しました。講習では出来ないような質問

にもお答え頂きましたので、ぜひご一読下さい。

— 梅花流詠讃歌を始めたきっかけや、特派師範を志した経緯を教えてください。

生後一週間で寺に引き取って頂いたご縁で、保育園に通う頃からずっとお経と御詠歌に包まれて育ちました。「梅花流詠讃歌を始めよう!」と思って始めた訳ではなく、成長と共にいつも側にあったリズムとメロディーでした。特派師範には、故阿部真澄師範が背を押してくださった事。これに尽きます。

— 宮城県の印象、議員さんの印象を教えてください。

「講習を受け慣れている」印象があります。とても素晴らしい事です。「見逃すまい! 聞き逃すまい!」と言う、オーラが皆様から溢れていて、私ものせられちゃいます。講習に慣れていないと緊張して硬くなりますが、宮城の皆様はありのままに接してください。私が成長出来る質問もしてくれます。もちろん他県にも同じような印

象を受ける所もありますが、宮城の皆様は別格です!

— 講師をされて失敗談等を…。お話しの際は結構です!

いや〜たくさんあります! (笑) 書き切れない! お話や歌詞解説をする時に、つなぎに「え〜」と発することが多くてよく注意されました。サ行が苦手で「釋尊花祭〜」のしゃくそんとか、「二祖懷奘禪師〜」のにそえじょう、「二祖峨山禪師〜」のがさんなどがちゃんとさええず、ホントに情けない…。今はゆっくりを心がけて、少しは直ったと思いますが、まだまだ注意です!

— 先生が好きな曲、好きなフレーズ等を教えてください。

失敗談と同じで、たくさんありすぎて書き切れないです! でもどうしても選ぶとしたら、修証義御詠歌(伝心)です。後半2行「みなこの経の声とこころと」を唱えるとき、なぜかギュッと胸しめつけられる気持ちになります。嬉しいとか哀しいとかの感情と違って、何かに温かく包まれるよ

うな感覚です。フツと気持ちも身体も和らげてくれる梅花に出会えて、私は幸せ者です。

— 講員さんがつまずきやすい所や難しいところを先生はどのように教えられるか一例教えて頂けますか。

作法ならば、法具の解き組みには流れがある事・つながりがある事を知ってもらえるように、經典の扱いや、念・礼・拝の違いをわかってもらえるように、基本の作法も特別な作法も何度でも私を見て頂き、見せて頂き、一緒にやっています。イロ・ツヤ・アヤ等は、十人十色の考えになる文科系と違って、答えが1つの理数系。仕組みとコツを知ってもらえば、どなた様も挑戦してもらえるもの。(他の旋揺も) 1例でなくてごめんなさい。でも曲を修得するには作法や旋揺は怖がらずに向き合って欲しいものです!

— コロナ禍でのおすすめの練習を教えてください。

私の宗務所ではデジタル委員会を設置し、年に2・3回講習の様子を発信できるようにしています。今は6月に

発信できるように動いています。(私は実技詠唱指導担当) 私の寺で毎月行っていた講習会も今は大人数で集まれないので、個人講習に切り替え1対1(または3人位まで)で1時間〜2時間のギャツとした勉強会をしています。ご自坊やお仲間での勉強会に行う曲をビデオカメラや携帯で録音・録画して行く師範・詠範もいます。出来る限り協力しています。私も緊張して良い勉強です!

— 近況やコロナ禍に感じることを。

色々な集まりや大会も中止になって長い時間が経っています。長野大会も中止となり皆様を迎える事が出来なくなってしまうしました。残念です。もちろん感染を広められないから自粛は仕方ない事があります。でも、ただ止まっているだけでは、どんどん萎えてしまいうそうで、怖さを感じます。人には老若男女問わず、「きょういく」と「きょうよう」が必要です。「今日行く所」と「きょうの用事」、これは梅花にふれるために集まっていた時には当たり前でした。そんな日々に戻る事を祈る毎日です。

— 宮城県梅花流の講員皆様へ。

よく聞くコマージュや時代劇のテーマ曲などは覚えようと思って聞いている訳じゃなくて覚えていっていると思います。それは知らず知らずのうちに何度も繰返し聞いていたからです。《くり返し》行うは、強い力を与えてくれる事を信じてください。皆様も日々お大事にお過ごし頂きながら、少しでも、ハミングでもいいから何かしら曲とふれあって、梅花流詠讃歌と共に過ごしてください! また皆様に直接会えます日を楽しみに、私も練習します。



また皆さんとお唱えができる日が早く来ますように

三田村秀範先生を偲んで

第二十一教区 清水寺講員

黒澤 正志

平成三十一年三月十一日、この日はお寺で私の母の葬儀が行われた日でした。朝、お寺の寺族様から、昨日、圓福寺住職の三田村先生が遷化されたと教えられました。俄かには信じられませんでした。母の葬儀のことで頭が一杯で何も考えることができません。したので、今年は三回忌の年にあたりますので、改めて三田村先生を偲び、当講との思い出を皆様にご報告したいと思ひます。

三田村先生には平成二十五年から五年間、当講の御詠歌の指導をして頂きました。先生の初めての稽古の日、本堂で先生をお待ちしていると、一瞬、プロ野球の清原選手が袈裟を着けて来られたのではないかと勘違いする程、お顔も風格も似ておられました。しかし合唱御迎えた後は、清原選手の強面ではなく、ニコツと笑われ優しい先生になっておられました。そこでほっとした記憶があります。

三田村先生は自分の講以外にもいくつかの講の指導をされておられるとのこと、清水寺の講も月二回の稽古にな

るが一生懸命やるので宜しく付き合せて下さいとご挨拶されました。

早速、三宝御和讃を唱えて下さいとの指示で合掌し法具を解き始めると、「ちよつと待つて所作のタイミングが合いません」と早速チェックが入りました。「皆様のメンバーは女性が十二人、男性が二人で、多分それぞれ一回り以上の年齢差があることが原因かもしれないですね。お寺の特別な法事などで何十人の和尚さんが読経するとき、ご年配の方は若い和尚さんの事、若い和尚さんはご年配の和尚さんの事を常に気にかけて読経するようにしているので合うですよ。皆さんの所作も他の人を気にかけて行くと自然と合うようになります。具体的には前の列にいる人、そして前の人は隣の人に気を付けて合わせることですね」との事でした。御詠歌を始めて五年になりますが、自分の所作にだけ集中していたことに改めて気付き反省した思いがあります。

我々梅花講員は、当寺の年間行事である、涅槃会、大回向、盂蘭盆会、成道会の際に御詠歌を奉詠しています。その他に教区大会、県大会、全国大会に欠かさず参加してきました。ですから一日二時間の毎回の稽古は内容の濃いものになっています。三田村先生は、御詠歌をさらに深いものにするためには、イロ、ツヤの入れが大切であると何度も繰り返し教えられました。これまであまり意識していなかった先輩方も積極的に練習をするようになりました。所作を含め暇のある時は家で何度も繰り返し練習しなさいと宿題を出され、次の稽古の時は一人ずつ唱えさるという厳しい稽古が続きました。しかし、所作がなかなかうまくできない講員には手を取って納得いくまで教えられたこともありました。

でも、稽古の合間にはご家族とのやりとりの話やお子さんが野球をやっているのその送迎の様子、一匹一万円もする金魚を飼っている話などを面白可笑しく話をされ、緊張した場を和まして頂きながら稽古を進めて頂きました。

また、何回か講の新年会にも参加して頂き、一緒に酒を酌み交わさ



写真右 在りし日の三田村秀範先生

れ、カラオケを披露されると寺族様や女性講員は大変感動していました。私などには二次会まで付き合ってもらい、ラーメンと一緒に食べたことも温かい思い出として残っております。

このように三田村先生には御詠歌のみならず沢山のご指導を頂きました。これからもこれらを糧に益々梅花講に励み、三田村先生に良い報告が出来るようにしたいと思っています。

三田村先生、有難う御座いました。

養成所第二十一期生

第十九教区 海蔵寺寺族

石 龍 るみ子

私が初めて御詠歌を聴いたのは、叔父の葬儀でした。その時は御詠歌自体を知らず、お経とも歌とも違う、とても綺麗なメロディに感動したことを覚えています。

丸森西圓寺で講を開く際に参加させて頂き、西圓寺のお檀家の皆様と一緒に梅花を学んでいく中で、更に学びたいと思いい宗務所主催の養成所に申し込みをしました。

昨年四月に開講予定であった「第二十一期指導者養成所・初級」ですが、

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、三か月遅れの七月開所式を迎える事が出来ました。

従前とは異なり、ソーシャルディスタンスに注意を払い、マスクの着用やアルコール消毒、WEB会議ソフトを使用したリモートでの参加など、自宅に居ながら講習を受けることも可能になりました。

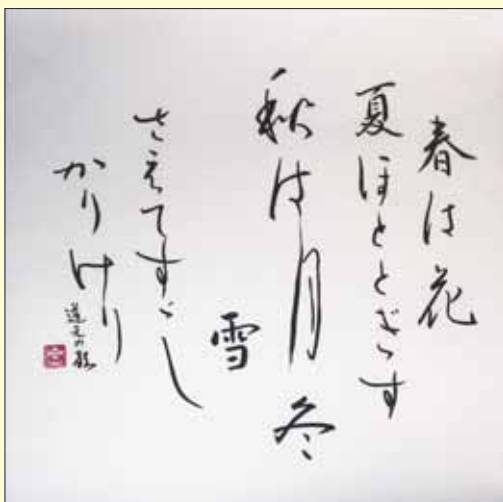
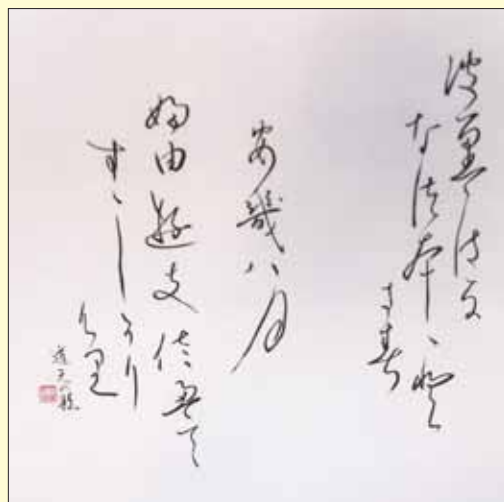
十一月に行われた一回目の検定では、緊張の中自信の持てるお唱えとはいかず、合格を頂く事は出来たものの練習不足を痛感しました。

「威儀即仏法・作法是宗旨」の言葉が詠讃歌に掲げられております。正確に作法を習得し、所作のひとつひとつを丁寧に行い、まごころある信心でお唱えする事が出来る様に、先生方のご指導を頂きながら練習に励んでいきたいと思います。

梅花流お誓い「正しい信仰に生き、仲良い生活をし、明るい世の中を作り出す」の言葉を念頭に置き、更に精進して参ります。



みやぎ梅花歌壇



第十六教区 補陀寺講

小山 千エ子(恵翠)

表紙説明

「嶺の色 谷の響きも皆ながら

我が釈迦牟尼の 声と姿と」

溪声 永平寺第一番



今年の冬は、格別に寒く、また雪の大変多い年でございました。又、風の強い日が連日のように続き、それだけに、暖かい春の到来が大変待ち遠しい、そんな気持ちで万人がお待ちだったと思います。そんな中、思いがけず、ここ宮城も三月末に桜の開花を迎え、四月には桜も満開となり、まさに待ちわびた春爛漫の時期を迎えました。

そんな春の陽気に誘われて、ある、山桜満開の深い山谷に足を踏み入れてみました。聞こえるのは、自分の足音と、谷を流れるせせらぎの音、そして、春を謳歌するが如くの、鳥のおおらかな囀りのみ。至福のひと時でした。木漏れ日さす見事な山桜の下にたどり着くと、何やら花の中を動く、小さな小鳥を見つけました。『目白・メジロ』です。一心に花の蜜を吸っています。驚かさないう静かにカメラを向け、シャッターを切りました。

自ずと「嶺の色 谷の響きも皆ながら 我が釈迦牟尼の 声と姿と」溪声 永平寺第一番の歌詞が思い起こされました。花は無心に咲き誇り、そこに小鳥や虫が華や蜜を求め集まり、その鳥や虫を通じて、桜は受粉を済ませ後世に命を繋ぎ、蜜は、小鳥の雛や虫の餌となり命を繋ぎます。正に悠久の時を超越し続いてきた命の不思議がこの一瞬にも現成しているのです。一刻一刻移

り変わる全ての事象のなかに、この様なすべての命が繋がっているような不思議な宇宙の法、仏法が如実に展開されているのです。

私は、深呼吸をし、谷の空気をいっぱい吸って、その場を後にしました。

現世は、時あたかもまさにコロナ禍の真最中です。皆が集い、笑い、詠い、同行同修で務めてきた、わが梅花流にとっても、コロナはまさに脅威でございします。どうぞ、暫しの間各々が自粛自重して頂き、たまには、自然の声にも耳を傾けていただきながら、どうぞご自愛頂きたいものでございます。

そして、また、皆で、心ひとつに、共に、笑い、感動し、大きな声で御唱えする日が、早く到来しますよう心より念ずるものでございます。

合掌

元梅花流特派師範

眞源寺住職 齋藤政裕

合格おめでとう
ございます

令和二年度は、次の方が宗務庁検定で合格されました。

二級詠範

気仙沼市 松岩寺 小黒澤 美津枝

宗務所梅花講からお知らせ

新型コロナウイルス感染症予防のため、昨年から事業の中止がやむなく続いております。本年においても、**県奉詠大会、特派講習会、宗務所講習会、特別講習会**は中止とします。

代替企画等検討を重ねましたが、まずもって、梅花講から感染者を出さないこと、命を最優先することとします。

ただし、検定会は感染症予防対策を講じて秋に開催を予定しております。

また、年内に「みやぎ梅花 別冊号」を刊行予定です。

各講に於かれましても、地域の感染状況を鑑みながら、活動の再開を検討されていることと思います。

感染症予防対策を講じて無理のない活動をお願いします。

感染予防基本指針

- ◆会場が三つの密「密閉空間」「密集空間」「密接会話場面」が発生しないよう措置を講じる。
- ◆最低限の感染防止策を講じる。（マスクの着用、消毒設備の設置、会場内の換気、参加者の体調事前報告）
- ◆極力食事会を行わない。飲食を要する場合は対人距離を十分にとり、人の向きなどに注意する。
- ◆国及び開催地の都道府県における行事等の開催方針に適合しているか確認する。

※あくまで指針であり、遵守を強制するものではありません。可能な限り感染防止に努めて実施をお願いします。